

平成 30 年度 記者懇談会（第 10 回）の記録

日 時 平成 31 年 1 月 30 日（水）午後 3 時 30 分
場 所 水道庁舎 4 階 会議室
記者数 6 人
同席者 飯川副市長、若山副市長、総務部長、健康福祉部長、建設部長
次 第 1 雪対策の進捗状況について
2 第 38 回北海道障がい者冬季スポーツ大会の開催について
3 その他



1 雪対策の進捗状況について

説明内容

(市長)

この冬の総合的な雪対策の現段階の進捗状況です。

はじめに、今シーズンの雪の状況です。

昨年クリスマス頃までは、積雪も平年を下回り、穏やかに経過していましたが、年末には、寒波の影響もあり、断続的に雪の降る年明けを迎えました。

その後、1月中旬からは冬型の気圧配置が続き、1月21日には大雪警報が発令され、本日の午前8時現在、積雪深が平年並みの87センチ、累計降雪量は526センチであり、降雪量は平年を50センチほど上回っているところです。

次に、運搬排雪の実施状況です。

年末の大雪を受け、速やかにバス路線や運搬路の排雪を行い、その後も、センター試験や始業式に合わせ、学校周辺の通学路を中心に排雪作業を進め、1月18日までに排雪路線を一巡したところです。

しかし、1月中旬から1週間で1メートルとまとまった降雪に見舞われ、先週の金曜日から、再度、バス路線の排雪作業に取り組んでいます。

また、運搬排雪に係る路線数と延長につきましては、1月25日現在で、延べ173路線、102キロメートルとなっており、国道・道道の2回目の排雪もほぼ完了していることから、市内の交通状況は回復しているものと考えています。

さらに、先週の1月22日から利根別川消流雪事業を市内中心部で行っています。本日も、利根別川に架かる橋梁で投雪作業を行っていますので、市街地の拡幅作業についても、順調に進んでいるところです。

なお、利根別川消流雪事業は、関係機関のご協力の下、2月1日まで実施する計画となっています。

次に、市民雪堆積場における雪の搬入状況です。

昨年度に引き続き、市内4カ所の堆積場を用意しています。

今年は既に49万立方メートルに達しようとしており、昨年同時期の35万立方メートルより4割くらい多く搬入されています。

特に、栗沢町雪堆積場は、このままのペースで搬入されますと2月上旬に満杯になると見込まれるため、近くの工業団地内での臨時堆積場の開設を検討しています。

次に、苦情・要望の状況でございます。

1月25日までに940件の苦情・要望が寄せられています。これは、昨年同時期と比較して約1割多く、置き雪に関する苦情が多くなっています。

今年は、風を伴った降雪も多かったことから、吹き溜まった重たい雪が間口に置かれた日に、特に苦情件数が多くなった傾向があります。

次に、空き家の対応状況です。

市が把握している管理不全な空き家は 231 件です。

このうち、落雪などの恐れがある 137 件については、1 月 7 日からの 3 日間でパトロールを実施し、落雪被害のおそれのある 49 件に対して、現地の状況が分かる写真を添付し、所有者などに指導書を送付しました。

また、緊急性の高い空き家 7 件については、職員による屋根の雪下ろしを行い、残り 81 件については、経過観察としました。

次に、「高齢者世帯等冬のくらし支援事業」の登録状況です。

今年から間口除雪助成を開始したことに伴い、登録は現時点で 410 世帯と、昨年の雪下ろし助成に比べ 2 倍以上になっています。

なお、登録された方は、間口除雪助成と雪下ろし助成の両方を利用できるようになっているため、内訳につきましても、助成金の申請を受け付けるまで実数の把握はできませんが、登録の際にお話しを伺いますと、多くの方が間口除雪助成制度の開始をきっかけに、除雪業者に間口の置き雪除雪を依頼されているようです。

次に、豪雪パトロールです。

今年度も大雪の際に素早く対応できるよう、昨年から準備を整え、ひとり暮らしの高齢者世帯などを巡回調査する豪雪パトロールを行う体制を敷いています。

出動実績として、1 月 23 日から 25 日までの 3 日間で実施しました。

巡回調査対象 2,454 世帯のうち 18 世帯に対し、生活通路の確保や給排気筒周りの除雪などの支援を実施したところです。

次に、人的被害の状況と雪下ろし装備の貸出状況です。

1 月 25 日までの状況ですが、15 件の事故が発生しました。昨年の同時期と比較すると 8 件の増加であり、なお、死亡事故は発生していません。

ケガの程度は、重傷が 8 件、軽傷が 7 件であり、15 件のうち半数を超える 9 件が雪下ろし作業に伴う転落事故です。

また、この冬の「雪下ろし 3 点セット」の貸し出しは 3 件であり、引き続き安全確保のための啓発を行います。

質疑応答

(北海道新聞)

降雪及び積雪状況によると、今年 1 月 25 日現在の累計降雪量は 525 センチですが、今年より以前で 5 メートルを超えた直近の年度はいつですか。

(市長)

各年度 1 月 30 日現在で申し上げます。

平成 31 年度の累計降雪量は 526 センチ、積雪深が 87 センチ。

平成 30 年度の累計降雪量は 514 センチ、積雪深が 97 センチ。

平成 25 年度の累計降雪量は 467 センチ、積雪深が 104 センチ。
平成 24 年度の累計降雪量は 558 センチ、積雪深が 110 センチ。
最も降雪が多かった平成 23 年度の累計降雪量は 722 センチ、積雪深が 159 センチです。

(北海道新聞)

苦情・要望等受付状況の内訳によると「置き雪」に関するものが増えていますが、昨年度など例年どのような苦情が多いのでしょうか。

(建設部長)

置き雪が一番多くなっています。

(北海道新聞)

昨年度の苦情・要望等 1,777 件のうち、置き雪に関するものはどのくらいですか。

(市長)

手元に資料がないため、後ほど件数をお伝えします。(→500 件)

(北海道新聞)

空き家対応状況によると、指導書により通知された所有者がいますが、その所有者から反応がありましたか。

(総務部長)

1 月 25 日に発送し、リアクションがあるまでまだ時間がかかると思いますが、反応があった件数は担当課に確認した後、お伝えします。(→5 件)

(北海道新聞)

例年、指導書を受け取った人のうち、何も対応せず放置する件数は多いのですか。

(総務部長)

ほとんどは対応していただいています。一方で、全く対応していただけないことも数件あります。

2 第 38 回北海道障がい者冬季スポーツ大会の開催について

説明内容

(市長)

来月 2 月 24 日、「第 38 回北海道障がい者冬季スポーツ大会」を、岩見沢市の山市民スキー場で開催します。

昨年 7 月には、岩見沢市と美唄市の 2 市で「第 56 回北海道障がい者スポーツ大会」を開催しましたが、岩見沢市での冬季大会は初であり、夏季・冬季の両方を同一年度内に開催地となる自治体としては、本大会の歴史上、岩見沢市が初めてです。

冬季大会では、大回転競技と距離競技の 2 種目を実施します。

選手募集は、昨年 12 月末に終了し、大回転競技 52 人、距離競技 86 人、計 138 人の参加申し込みをいただきまして、枝幸町で開催された前回大会の 89 人よりも多くの方にご参加いただくことになりました。

競技の実施に当たりましては、市の職員 80 人に加え、岩見沢スキー連盟から約 50 人の方にご協力いただくほか、約 40 人のボランティアにご参加いただき、多くの市民のお力添えにより、総勢 300 人以上でこの大会が実施されます。

このような障がい者スポーツの大会を通じて、ノーマライゼーションの理念が地域に広がり、誰もが自分らしく暮らせる共生社会が実現することを期待しています。

質疑応答

(プレス空知)

岩見沢市での開催が初めてとのことですが、空知管内での過去の冬季大会の開催状況はどうでしたか。

(健康福祉部長)

平成 26 年に長沼町、平成 19 年にも長沼町、平成 17 年に深川市、平成 16 年に栗山町、平成 11 年にも長沼町、平成 7 年に芦別市、平成 6 年に砂川市、平成元年に歌志内市、昭和 61 年にも砂川市、昭和 58 年に赤平市で開催されました。

3 その他について（記者からの質問）

質疑応答

(北海道新聞)

新年度予算編成について、その進捗やどのようなことを意識して編成作業を進めているのか教えてください。

(市長)

新年度予算案は、ほぼ固まりつつあります。

社会保障費や消費税増税による経費が増加する中、人口減少問題にどのように予算を配分するかということに苦心した予算編成でした。

一般会計予算案の規模は、今年度当初をやや上回る 500 億円程度になる見通しで、これまでで 3 番目に高い予算案になるかと思えます。

(北海道新聞)

先日、朝日町内会の避難訓練を取材しました。

避難訓練は、全面停電を想定し、市から借りた発電機を使って体験するというもので、町内会館などに発電機があるといいと改めて私は感じたところです。

新年度予算編成の中で、町内会館などへの発電機の設置をお考えですか。

(市長)

私たちは、北海道胆振東部地震に伴う停電、ブラックアウトを経験しましたので、発電機の増強をメインに考えています。

拠点となる避難所には自家発電装置の設置を考えています。

また、それに準ずるような避難所にもポータブル発電機を複数台設置し、停電に備えたいです。

また、町内会館は、市の指定避難所ではありませんが、停電のときには一時的に住民が避難できる一番身近な施設ですので、町内会館にポータブル発電機を配備したく、予算措置しています。

(北海道新聞)

予算規模はどの程度でしょうか。

(市長)

約9千万円を考えています。

(HBC)

最近、夕張の鈴木市長が道知事選に出馬すると報道されていますが、同じ空知管内の首長として、どのように受け止めていますか。

(市長)

知事選出馬候補として名前が報道されている方々は、知事として不足のない方だと思っています。

(北海道建設新聞)

予算案に戻って申し訳ありませんが、当初予算案に入る大型の案件はどのようなものがあるのでしょうか。

(市長)

市役所新庁舎の建設、栗沢文化交流施設の新築、東小学校大規模改修の継続費などがあります。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあつたものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)